

校長室だより

No. 26

平成28年11月4日(金)

# 強く やさしく

六ツ美中部小学校校長

か とう よし か  
加 藤 嘉 一

## 人と涙の多かった学芸会



すべての演目が終わり、児童代表の山崎大雅君があいさつのなかで「みなさん、今日のぼくたちの演技はいかがでしたか。」「楽しみ感動していただけたでしょうか。」と語ると、二度とも会場から大きな拍手が沸きあがりました。こんなことは、わたしの経験では初めてです。今年は、御来賓の方々（特に総代さん）のなかで、一度帰られた後

に午後にも御参観いただいた方が多かったですなど、本当に多くの方に、子供たちに励ましと拍手をいただきました。ありがとうございました。

わたしは、あまり安易に「感動」の言葉を使いたくないと思っています。しかし、学芸会を終えてみて、わたしの心に残ったことは、「感動」です。招いている側のわたしが、見入っているといけないと思いながらも、何度も涙がこぼれました。「お話しや音楽の世界から伝わった感動」「一生懸命に劇や演奏を支える子供の姿からもらう感動」

「子供が仲間を思いやり、支えている成長の姿を見ての感動」「長い道のりを通してたどり着いた子供と先生の姿を見ての感動」。

学校サイドの感じ方ばかりで恐縮です。ただ、転任された先生方



1年生	音楽劇 ブレーメンのおんがくたい
2年1組	物語劇 葉っぱのフレディ
合唱部	「かぜのうた」「岡崎市歌」「Let's search for tomorrow」
3年生	音楽劇 となりのトトロ
2年2組	音楽劇 ふくろうのそめものやさん
4年2組	物語劇 まぬけ村物語
6年2組	音楽劇 アラジン
5年生	音楽 魅せる 聴かせる マリオの大冒険
4年1組	創作劇 本当の宝ものは
6年1組	物語劇 火垂るの墓

が口々に「久しぶりにこんな完成度の高い学芸会を見た」とおっしゃってください、子供たちが多くの方々にもたらしたであろう感動の「記憶」を「記録」にしておきたいと思いと、ここに記しました。保護者や地域の方々にとっても、心動く一瞬があったのなら幸いです。「感動」をもたらした子供たちに、わたしからもう一度大きな拍手を贈りたいと思います。

### 工夫を加えて ー今年の6年修学旅行ー

6年生は、来週7日（月）・8日（火）の1泊2日で奈良・京都へ修学旅行に行きます。わたしの修学旅行への子供たちへの願いは、以下のようです。

#### 【修学旅行で学んでほしいこと】

- 1 「歴史」という、手にとって見ることもさわることもできないものの学習の仕方を身につけること
- 2 施設も含め「公共」の意味を考え、「マナー」を身につけること
- 3 大きな行事であり、子供・保護者の期待も大きい中で、友達、学級、学年への気配りを考え、修学旅行でしか味わえない思い出作りをすること。  
特に、みんなで同じ経験をする時間は必ずとり、大人になったあとも共通の話題となるものがあること。

たった1泊2日の修学旅行ですが、その形は毎年何度も検討します。わたしは、担任として6年生を担当した経験が5回ありますが、小学校の修学旅行は、中学校の修学旅行に比べ非常に時間がタイトであり、歴史の学習を踏まえると、どうしても見学させたい場所は絞られ、工夫が難しいと感じました。担任5回のうち、奈良公園と映画村以外はすべて団体活動の形が2回と、京都市内班別自由活動の形を加えた形を3回経験しています。その印象は、どちらもよさと課題があり、限られた1泊2日だと子供たちの訪問場所に大きな違いはありませんでした。

毎年修学旅行は、担任の先生たちの考えや思いを受けとめ、昨年までの申し送りと6年生以外の職員の考えを参考に、時代の要請と安全の保障を確認しながら自分の考えと総合的に判断し、子供にとって意味のある修学旅行を模索しています。

本年度も、本多先生・近藤か先生・松井先生が



【昨年度修学旅行 法隆寺にて】

一生懸命考えてくれました。1日目の最後に全員で南禅寺座禅体験をし、2日目には嵐山から班別活動をはじめ、太秦映画村まで雷電（京福電鉄）を利用して、子供だけで移動・活動する時間を持ちます。今年ならではの修学旅行が、子供たちにとって宝物になるようにしたいと思います。